

# オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年11月20日第24号 (通巻30号)  
 オリーブの会  
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
 tel/fax:072-737-9454  
 mail: olivenokai\_zeytun@yahoo.co.jp  
 facebook:oribunokai



## 極右が支配するイスラエル新政権

イスラエルの3年間で5回目の総選挙で、ネタニヤフのリクードが32議席を獲得し第一党となった。そして、極右シオニスト、シャスと宗教シオニスト党が議席を伸ばしが第三党になり、リクードは、政府をつくるためには極右政党の連立になり、それによって120議席のうちの64議席となり、多数派となった。和平の可能性はなくなりました。

とくに、宗教的シオニズムは、最右翼の「ユダヤの力」のイタマール・ベングビールと提携しており。同じ右派でも、シャスのように労働党政権にいたような右派と違い、宗教的なシオニストであり、自治政府との交渉を否定し、アラブ系イスラエル人との提携も拒否するものである。論評によれば、この政権では、リクードが一番左翼なるといわれている。しかし、ネタニヤフも、オスロ合意を骨抜きにしてきたように、パレスチナに独立した国家を作らせる気はなく、西岸を併合することをもくろんできた。リクードは世俗シオニストの右翼であるが、宗教的なシオニストがと組むことによって、宗教的な右派シオニストの色彩が強くなっている。

事実宗教シオニストたちは、男女の区別の導入を主張し、世俗派からは、イランのようにする気かといわれている。また、宗教シオニストの指導者が国防相の地位を

要求したり、ベングビールが国内治安相の地位を要求しており、連立交渉もうまくは進んでいないが、シャスが妥協することで、合意にこぎつけようとしている。

この政権の性格は、明確に、パレスチナと交渉して、共存するのではなく、パレスチナ人を追い出し、西岸を併合することを目指すものである。

それは、パレスチナとの緊張を高めるだけではなく、中東全体を不安定化させるようそになりかねない政権であり、米国は警戒を強めている。米国は、新たな政権に圧力をかけて情勢を不安定化させないようにすることになるだろう。

この総選挙の結果は、イスラエル社会の右傾化、宗教的な右翼への傾斜を示している。そのため、伝統的な中道左派であった労働党は見るともなれない(4議席のみ)。

ラピドを首班とする政権は、反ネタニヤフでアラブ、左翼から極右までが連立を組んだ政権であった。総選挙では票を伸ばすことができなかった。

総選挙では、連立に入っていた左翼のメレッツは議席獲得にまで、得票が達せず、労働党も少数政党であることを超えることができなかった。

## オリープの会通信 第24号(通巻30号)

オスロに固執する自治政府はますますよりどころを失い、パレスチナの抵抗は激化することになる。イスラエル軍と入植者たちは、この選挙結果にあわせるように西岸でのパレスチナ人へのテロを拡大している。

この結果、西岸でのパレスチナ人の抵抗が強まることになっている。ジェニン、ナブルスが武装抵抗の拠点となり、アリー・アルアスワド(ライオンの巣)という党派をこえた青年の武装グループが登場し、武装抵抗が拡大することになった。西岸の緊張は高まることになり、すでにイスラエル軍は、その勢力を強化している。アメリカとイスラエルが進めてきたアラブ諸国との正常化にも影響が出てくる可能性がある。現在のイスラエルにとっての和平は、アラブ諸国との共存をつくりだすこ

とであり、それが動揺する可能性がある。

現在のイスラエル政府が、西岸での抵抗闘争の拡大は、自治政府が弱いせいであるとしているが、自治政府が拡大する抵抗闘争を弾圧を強めれば、自治政府の命取りになる。

自治政府が、オスロ合意というすでにイスラエルが放棄したものに期待をつなぐ限り、パレスチナの統一をつくりだすことはできない。しかし、アリー・アルアスワドが形成されたことは、党派の枠組みをこえた。抵抗闘争を作り出す可能性が生まれている。



投稿日：2022年11月15日 | 15:45 (PFLPのホームページより)

ネタニヤフは、1991年のマドリード会議で、イスラエル人の代表団のスポークスマンの存在として登場して以来注目され、著書「太陽の下の場所」の出版を皮切りに首相選に打って出たことでより知られるようになった。

この本を読んで思い出すのは、ドイツの指導者ヒトラーがドイツを率いることを目指し始めた時に書いた、総論を発表した後に計画を詳細に記した有名な本(我が闘争)である。世界は『我が闘争』をプロパガンダ作品として読んだが、ヒトラーが絶対的な権力を握ったとき、その計画を実行に移すとは誰も思わなかった。

ネタニヤフは本の中で、自分の意見を述べた。本の読者の多くは、以前『わが闘争』の中で世界が考えたことであり、彼が述べた意見は、彼が権力を握るとすぐに超越する、書かれた創造物に過ぎない、と考えた。しかし、実際には、彼は、彼の過激主義と右翼と、入植地のための彼の絶対的なサポートと、(ユダヤサマリア)、すなわちヨルダン川西岸は、イスラエル人が放棄することはできない“イスラエル”の遺産とその栄光の場所であるという彼の信念で、彼が書いたものに忠実であり続けた。

先週の日曜日、ヘルツォーク(イスラエル大統領)が議会ブロックと行った協議により、ネタニヤフ首相は第



6次内閣の組閣を命じられた。そして、彼は、選挙キャンペーンで、旧新政治定数に対する勝利後と同様に、当局を治安と地方行政のみで扱うレベルに下げ、入植を加速し入植前哨部隊を合法化し、The deal of the centuryにあるように西岸地区の一部の併合につなげ、当局がトランプ氏の離脱を受けてもうないと考えていることを発表し、実際に強調していたのである。

ヨルダン川西岸地区は、前述のように宗教的理解と聖書の正統性から「イスラエル」の本当の土地であり、現代政治の感覚からすれば戦略的に必要な場所である。ネタニヤフは、特にエルサレムとアル・アクサ・モスクに対するヨルダンの委任の問題や、水の問題で、ヨルダンがパレスチナ人の東方における国家樹立のための最終分与地であることから、ヨルダンに嫌がらせをするだろう。レバノンも嫌がらせの対象となり、ネタニヤフはすでに選挙戦、そして勝利した後も、国境やガスの画定協定は前政権によるレバノン抵抗勢力への服従に他ならず、トランプとの交友で阻止されたイランとのエスカレーションが必要だと見ている。オバマ政権がテヘランと締結した核合意は、ペトロダラー諸国を反対に煽るように働き、ワシントンに興味のなさそうな対立に巻き込みかねない。

一方、ネタニヤフ首相は、選挙に勝った後、最後に接触したジョー・バイデン氏と戦略的、それから個人的な政治的スコアを解決したいという圧倒的な欲求を持っているが、その接触はプリンケン外相とパレスチナ大統領の電話会談に先行し、そこで最初の方が強調したのは、米政権の約束（これは口頭約束である）である。別の分野では、主権省を要求している過激派ベン・グヴィールの布陣の閣僚との取引を米政権が拒否していることを表明した。レバノンへの米国の特使、アモス・ホルクス

タインは、公式のレバノンで彼の役割を To Whom It May Concern と呼ばれ、ワシントンは国境画定協定とレバノン領海からのガスの抽出にコミットしていることを強調した。

ネタニヤフ首相は、ロシアのプーチン大統領との親密な関係を誇り、他のどの指導者よりも多く訪問し、個人的、政治的な調和を達成したという。少なくともモスクワの怒りを買うことはなく、むしろシリア戦線での利益とチャンスを得るために、ウクライナ・ファイルをバスターにするよう努力するだろう。これらのことは、ネタニヤフとバイデンの関係が厳しい緊張を目撃することになることを示している。

共和党が中間選挙で重要な勝利を収めた場合、ネタニヤフの力の源は完全であっただろうが、今まで、これが達成されるように見えることはない。

疑問が生じる。ネタニヤフ首相は、国防省や国土安全保障省を目指すベン・グヴィール氏や、財務省を目指すもう一人の血気盛んな過激派シモトリッチ氏などのパートナーと、国際的に受け入れられる政権を形成できるだろうか？

米政権をはじめとする欧米各国政府は言う。彼らは、この種の閣僚がいる政府とは取引できない。解決策を探す作業は、ラピドとガンツを説得してこの提携を結ぶことができれば、幅広い政府を形成する方式を探しているヘルツォーク大統領に任されているようだ、と述べられている。ニュースでは、ガンツとラピドのコンビは、ネタニヤフ首相が政府を率いないことを条件に合意するかもしれないと言われている。



投稿: 2022年11月16日 | 10:22 (PFLPのホームページより)

宗教シオニスト党がクネセト、すなわちイスラエル国会で14議席を獲得し、リクード党首ベン・ネタニヤフの政権に参加したことで、エルサレムやヨルダン川西岸

の同党幹部が、入植地の拡大だけではなく、パレスチナ人を彼らの土地から追放する政策を実行するための公的予備計画策定への欲求を刺激し始めたようです。エルサレム市の占領副市長アーリエ・キングである。彼はヘブライ語の電子雑誌「ハマコム」の記者会見で、“占領下パレスチナ内の50万人のパレスチナ人を土地から追い出すために働く”と発表し、そのインタビュー文が11月11日にイスラエルの新聞「ハーレツ」に掲載された。そして、あるユダヤ人団体は、この政策の採用を促すために、この強制退去の費用を負担することを表明した。

そして、ヘブライ語新聞は、キングが2005年にアメリカのユダヤ人大富豪アーヴィン・モコヴィッチと協力して、エルサレム市内のパレスチナ人から土地を購入したことを明らかにし、キングはエルサレム市内での祈りの呼びかけ(アザーン)を阻止するキャンペーンを主導し、これを最も恐ろしい性格だと述べ、この措置にエルサレム市とその場所のユダヤ人化のための準備措置を見ていたことを付け加えている。数十年前、イスラエルの「カチ」組織のリーダー、ラビ・メイル・カハネは、1948年の占領地からパレスチナ人を追放するために、それぞれの家族に10万ドルを与え、彼らを米国に移送して米国市民としてそこにとどまることを要求したが、彼はこの申し出で受け入れる一つの家族も見つけられませんでした。彼の提案はパレスチナ人によって潰され消滅しました。この時、イタマル ベングビール率いる宗教シオニスト党のメイル・カハネの弟子は、ネタニヤフ政権とリクード党を打倒することができる議会のブロックであることに加えて、彼らは議会で14議席を持った後に彼の計画を復活しようとしています。

数日前、ベン・グビエールは、カハネの支持者を対象とした政治シンポジウムに参加した。1990年、パレスチナ人に対する彼の政策に反発し、米国滞在中にアメリカ市民のエジプト人によって殺害されたカハネの記念日である。ベン・グビエールは、パレスチナ人に対する残忍な政策において、カハネに劣らず危険であり、特にエルサレム市ではシェイク・ジャラーやシルワンの近隣やアル・アクサ・モスク近くの神殿山で彼の党の武装支持者とともにその中で動き、エルサレム市をユダヤ化しユダヤ人入植者だけの都市にすることを目的に、エルサレム市在住の人々を脅かし立ち退かせるために動いているのだ。これは、彼が選挙活動をして120議席中14議席を獲得し、ネタニヤフ首相の首相候補を支持したときに政権樹立の機会を形成したのと同じ政治プログラムである。

ベン・グビエールの家を訪ねた人は皆知っているが、彼はよく家の前にメイル・カハネの写真を置き、その横にイスラエルと書かれた地図を置いて、地図の真ん中にイラクの国境までのヨルダン王国の土地をイスラエルの一部として示していた。彼らは1982年にエルサレムの岩のドームモスクを爆破しようとしたが、モスクのパレスチナ人警備員がその時モスクの中心部に爆薬があることを発見し、消火してイスラエル警察を呼んだが、何もしなかった。

したがって、ベン・グビエールが率いる彼らの政党が、リクード党とネタニヤフ首相との連立政権合意に従って閣僚の人数を決定する以上、エツィオン、マルツェルとその支持者の活動が、イスラム聖域に対する公然かつ残忍な行為に転じる可能性は決して低くないのである。

イタマル・ベン・グビエールが国内安全保障大臣に任命された場合、特にベン・ガビエルが治安要員の保護強化を確保するためにパレスチナ人に対する発砲手続きの修正を要請すると発表した後、ヨルダン川西岸アリーナとエルサレム市はパレスチナ人との対立がエスカレートすることが予想される。

イスラエルの新聞「マールブ」は一週間前、国家の最高監察官マタニヤフ・エンゲルマンがヨルダン川西岸地区の陸軍と国内治安部隊のいくつかの兵舎を抜き打ち視察し、特に数十万個の銃弾の紛失について受けた報告を受けて、パレスチナ人武装勢力に立ち向かう後方支援態勢に欠けていることがわかったと報じた。いくつかの軍のキャンプから、パレスチナ人抵抗軍の戦闘員の手にあったと考えられている多くの戦闘兵器の損失に加えて、これはエルサレム市とヨルダン川西岸の都市の残りの部分でパレスチナ人に対するイスラエルの武装エスカレーションの兆候を示すかもしれません。



投稿: 2022年11月12日 | 13:44 (PFLPのホームページより)

アルヤン。アルヤン (Alyan Alyan)

イスラエルの選挙結果が発表され、ヤイル・ラピド率いる変革同盟の(51)議席に対し、過激派宗教勢力とのリクード同盟の(64)議席の勝利が明らかになって以来、多くの作家やオブザーバーがこの結果とその意味や次元を読むことに忙しく、悲観論を述べる者も少なくない。

このうち、最も過激な宗教勢力がシオニスト政治方程式の重要なプレーヤーとなり、前回の選挙のような「地震の卵」ではなくなってから、この結果がヨルダン川西岸、ガザ地区、エルサレム、1948年地域のパレスチナ人の状況に及ぼす影響を恐れる者もいた。

私は、この結果が、右派が複数回にわたって勝利した過去の選挙の経験に基づき、この極端な右派の挑戦がパレスチナ全土のわが民族の革命的反応をエスカレートさせるという観点から、抵抗行為に積極的に反映されると固く信じている。歴史的に、右と右、右と左、中央左とその他の指定の区別を止めることに重点を置いて、彼らの決意を制限しないだろう。1897年の第一回シオニスト会議以来のシオニズム運動とその諸潮流(チャイム・ワイズマン率いる「自由シオニズム」、ウラジーミル・ジャポチンスキー率いる「保守シオニズム」、(デヴィッド・ベングリオン)率いる「労働シオニズム」)は、キャンベル・バナーマン会議(1905-1907)以来植民地国家の利益と交錯し、植民地の国家の利益に役立つパレスチナにおけるユダヤ人のナショナルホームを確立しようとする世俗植民地潮流であった。

聖書の宗教的スローガンは、労働党(労働党や統一労働者党「マパム」、労働党とマパムの合併による労働集会「マーチ」など)のプログラムの一部にもなり、「マーチ」はそのプログラムの中で聖書神話の側面と社会主義的傾向や民主主義とされるものを組み合わせていた。

右翼と左翼世俗ナショナリスト政党は、大イスラエル国家を確立するために宗教的なスローガンを使用して、大幅にそのような様々な政党と右翼宗教シオニズムの出現を促進した: 国家宗教党 "Mifdal"、Agudat イスラエル党、"Poali Agudat Israel" 党、ダウン3主要形成にそれはトローラーで極度の宗教右翼を表しています。西アシュケナジ系ユダヤ人のための統一トローラー・ユダヤ主義、東部ユダヤ人のためのシャス、そして最後に、カハナ・ヘイ運動とカチ運動の後継者であるイタマル・ベン・グヴィールとベザレル・スモトリッチのデュオが率いる極度の「宗教シオニズム」政党の結晶がある。西暦1994年2月25日にイブラヒム・モスクの虐殺を行ったユダヤ人テロリスト「パルク・ゴールドスタイン」によるもので、敵国政府が国際批判を恐れてこの2つの運動の活動を正式に禁止した後、この2人のテロリストが登場したのである。

戦術の違いと戦略の一致

右翼政党と宗教政党は、労働党が20年以上の権力闘争の輪を離れた後、4年間、それらの間の激しい権力闘争にもかかわらず、、、。しかし、パレスチナ問題に関しては、ヨルダン川西岸とガザ地区でのパレスチナ国家の樹立を拒否し、ヨルダン川西岸を併合しようとする点、さらなる土地の没収と入植、エルサレムのユダヤ



人化の継続とそれを(イスラエルの)永遠の統一首都とみなす点、殺害、逮捕、家屋解体、経済制限、帰還権の拒否などの政策に固執する点で、これらの政党は同じプログラムを表している……。右派と右派、右派と左派といわれる人たちの間で戦術の違いはあっても、戦略的目標をめぐるわずかな違いもなかった。”シオニスト労働党は、「ハガナ」組織を通じて1948年以前、ロドとデイルエシン、アルタントラなどのパレスチナ人に対する虐殺、そして1948年以降、豊かな歴史の持ち主であることを思い出すのに有益であろう。

労働党の有力指導者でオスロ合意の主唱者であるシモン・ペレスが、シオニスト運動の創始者たちに倣って、完全かつ偉大なイスラエルの確立のために段階の戦術を踏襲したことは注目に値するが、1993年にThe Knessetでオスロ合意の承認を阻止しようとしたリクード議員に激怒し、彼らを叱責するフレーズの後に「国家の創設者ダヴィド・ベン・グリオンの言葉を思い起こそう」と逐語的に語っている。「戦車で国境を越えられないなら、耕運機で越えなければならない」と、イスラエルの支配下での自治を指し、これが突破口を開くための橋渡しとなる。アラブ諸国の正常化、国際的孤立の打破、経済支配の実現であり、後に「中東・北アフリカ」会議でその実現に取り組んだ。

選挙の結果は抵抗勢力のエスカレートと呼応する

リクード党の連立政権が安定した政権を樹立できる余裕の過半数(64)議席を獲得したことに慌てる必要はない。ネタニヤフ首相の連立勝利に苛立ち、怒り、怯えている人は、ナフタリ・ベネットとヤイア・ラピドを交互に首相とした「チェンジ・アライアンス」が殺したことを思い出してほしい。1年半で230人以上のパレスチナ市民を殺害、逮捕、ユダヤ化、入植でリクード党を上回り、アルアクサモスクを時間的、空間的に分割する道で襲撃し、ネタニヤフがあえて実施しなかったエルサレムでのシオニスト旗の行進を達成し、記録数を獲得した。

ネタニヤフは、イタマール・ベン・ガヴィールとベザレル・スモトリッチ率いる「宗教シオニズム」党(14)議席、ミズラヒ・ユダヤ人のためのシャス+、アシュケナジ・ユダヤ人のための統一トーラ・ユダヤ(18)議席との同盟で、占領軍との対立方程式の本質を変えることはないだろう。ガザ地区は、2008年、2012年、2014年のイスラエル侵略の際に、過激派宗教勢力と入植勢力とのリクード同盟に直面して戦術的勝利を達成し、レジス

タンスは2021年5月のリクード同盟に対する歴史的な「エルサレムの剣の戦い」で戦略的次元の勝利を達成することができたのである。

したがって、イスラエルの選挙の結果を記述することは - パレスチナ自治政府の首相ムハンマド Shtayyeh が言ったように - 宗教シオニズム同盟が高度な結果(14)議席を達成した後、過激主義と人種差別の成長を示すとして、現実から何も変更されません。その様々な政党とシオニストエンティティは、ファシスト、人種差別的なエンティティです。首相は、国際的な決定や法律を重んじない現代イスラエル政府の政策や攻撃的なやり方からわが国民を保護するという大統領の懇願演説を繰り返すのではなく、パレスチナ国民の意志とその勇敢な抵抗に沿った新しい政治演説を行ったほうがよかったのではあるまいか。

ラピドとベニー・ガンツに率いられ、選挙で勝利した極右が入り出る際に巨大な銃弾の雨を降らせても、抵抗勢力は万全の態勢を整えていると強調した。私たちは、入植者が、アル・アクサ・モスクの時間的・空間的な分割を地上に反映させる新たな現実の創造に向けてアル・アクサ・モスクを襲撃することに固執するならば、新しい右派政権の傲慢さにまみれたセイフ・アル・クッズ(エルサレムの剣)の戦いを再び目撃するかもしれない。ちょうど、アル・クッズ剣の歴史的戦いにおいて彼らの人民の贈り物によって解放された1948年地域の我々の人々のように、そして彼らは対立の中で分離した、彼らはまだ今後の対立において戦略的予備軍を構成したのだ。



投稿: 2022年11月12日 | 13:36 (PFLPのホームページより)

イシャク・アブ・アルワルディン (Ishaq Abu Al-Walid)

「和平プロセスは、両者が政治的に実現可能なことと和解に必要なこととのギャップを埋めることができず、可能性と必要性の関係において犠牲になっている。イスラエル人とパレスチナ人は、単に解決策なしに生きることを学んだだけである。」シオニストの学者で元労働党外相のシュロモ・ベン・アミが2010年8月9日に発表した論文「和平プロセスの幻想」から。

このシオニストの政治家は現実主義の世俗シオニズムに属し、真の「和平」とは、アラブ諸国との戦争状態を終わらせ、アラブの周囲と完全に融合することによって、「イスラエル」の将来を確保する和平であるとする潮流に属しており、パレスチナ問題の下からアラブの敷物を引き、それを扱うことは、アラブの問題ではなく、イスラエルの問題なのである。このモロッコのシオニストだけでなく、すべてのシオニストの植民地主義者を悩ませているのは、パレスチナの土地における彼らの「未来」と「存在」である。

資本主義体制がパレスチナの地に「ユダヤ人のための国家」を建設して以来、その論争は収まらず、この国家の将来についての研究も止むことがない。ユダヤ人研究者を含む反シオニスト研究者のほとんどが、「イスラエル」は資本主義の意思決定中枢がその目標と戦略的計画に奉仕するためにパレスチナに設立した帝国主義の道具であり、その存立条件を有していない、という点で一致している。パレスチナに「ユダヤ人のための国家と祖国」として存続するために必要な社会的・歴史的な条件。なぜなら、パレスチナは数千年にわたりパレスチナ人の歴史的祖国である。また、シオニスト陣営には、そのすべての傾向において、この事実に対する認識がある。この陣営にはいくつかの矛盾があるものの、思想的・政治的統合と調和が優勢であり、様々な政府が同じアプローチを

継続し、彼らがパレスチナ人との「紛争」と呼ぶ問題に取り組むことを約束し、いかなるイニシアティブや計画も「国家」の将来と存在に影響しないという基本に立っているのである。ここから、ナクバ以来今日に至るまで、シオニスト主体のすべての政府が同じ道を歩み、モシェ・ダヤン元陸軍大臣によって集約された同じ交渉原則を適用していることがわかる。“唯一の和平交渉は、土地を開拓し、建設し、入植し、時折、戦争のための避難所に頼るものである。”すべてのシオニスト政権は、例外なくこの原則をしっかりと適用し、「イスラエル」の正統性を承認した「解放機構」と締結したオスロ協定でそれを押し付けた。歴史的パレスチナの78%以上に、初めて入植し、「イスラエルの西岸占領を、人類史上最も占領者にとって『快適な』占領とした」とベン・アミは言う。

パレスチナの正当な政党との唯一の公式協定として、シオニズムは、このファシスト、テロリスト国家が設立されたパレスチナの土地の歴史的正当性を犠牲にして、「イスラエル」の正当性の承認を得た後、パレスチナ人との唯一かつ最終の協定として扱われている。シオニストの行動や発言から明らかなように、この「歴史的」な達成の後では、もはや「パレスチナ人」とのいかなる種類の協議や対話も必要ないのである。将来起こりうるのは、母なる合意（オスロ）の枠組みの中で、実体内であれ地域内であれ、発展によって課されたり要求されたりする新しい理解であり、パレスチナのオスロチームはこの戦略に従うしかない。もし彼が自分の階級の利益、特権、安全保障関係を維持したいと思うなら、そもそもシオニスト実体と提携し付属し彼の許可で存在している自治政府での彼の継続を保証するために、である。

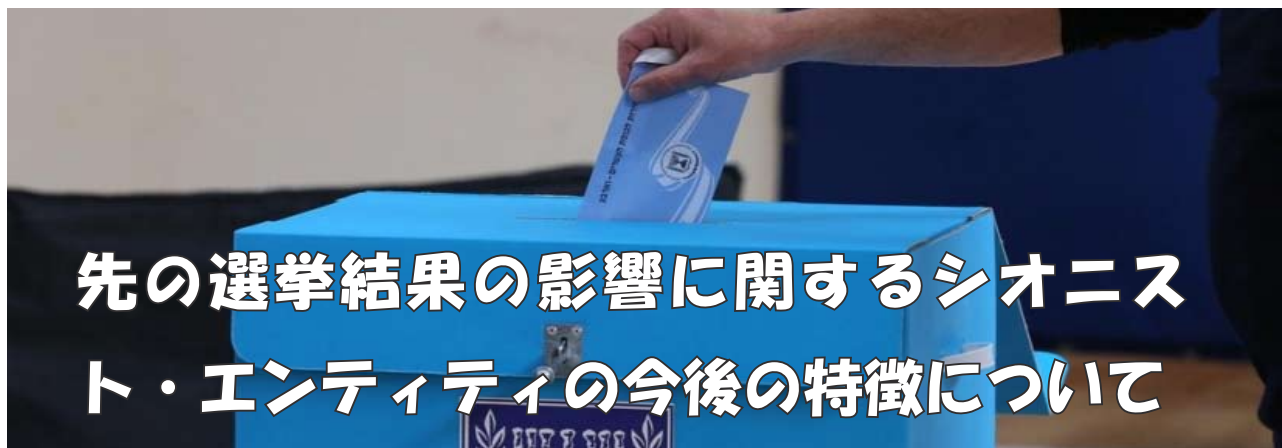
モシェ・ダヤンによって概説された戦略は、基本的に、「新しい到着者の建設と定住」のための拡大を目的として、戦争を通じて占領した土地の任意の部分のイスラエルの自発的放棄を含む任意の入植地に達する可能性を否定し、「イスラエル」は準備ができていないことを確認する。平和のための土地の原則を実現するために、1992年に「マドリード平和会議」が開催されたスローガンである、なぜなら「イスラエル」それは単に本当の平

和を望んでいないとそれを求めている、それはその性質に矛盾し、その侵略と拡張主義の特性からそれを取り除くため、基本的にそれは、帝国主義戦略とそのアラブ世界での主要な目標に矛盾している。彼は、可能なことと必要なことの間で行き詰まっている。なぜなら、彼は、自分に有利なパワーバランスと自分が属する陣営に有利なパワーバランスの大きなアンバランスによって、アラブ当事者、特にパレスチナ人を、自分の団体のニーズを満たすために彼と合意した和解と合意の網に「はめる」ことができたからである。そして、帝国主義、特に米國が経験した例外的な危機の状況下で、この地域における帝国主義の中心的なパートナー国家としての「イスラエル」の押しつけに道を開いた「ボイコット」からアラブ官界が自らを「解放」したのである。

この地域の発展、とりわけ、抵抗軸の結束と、占領されたヨルダン川西岸での武装闘争のエスカレートは、間違いなくガザ地区の不動の上に成り立っており、レバノンの抵抗が「イスラエル」からその海洋資源を盗まれないようにすることは - 原則的に分界協定を拒否する我々

の立場にもかかわらず、つまり、分界協定を拒否する我々の立場にもかかわらず、レバノンでの抵抗は、ガザ地区の安定と、「イスラエル」からの海洋資源の奪取を阻止する。その手の短縮 “アル Tawla”、彼女が主張したように、それは “イスラエル”、アラブとイスラム世界におけるその正常化外交 “成果と勝利” にもかかわらず、 “また、深刻な危機の中で生きている ” と断言した、

これまでのどの時期よりも、“イスラエル” は私たちの民族に対して、より残忍な行為、テロ、殺戮、破壊を行うことによって、その正反対の姿を見せようとしているが、現実には頑強で強く、もはやその弱さと緩みを隠すことができない。



投稿日時：2022年11月19日 | 09:15 (PFLPのホームページより)

国家の社会形態、実体におけるファシズムと軍国主義の発現、実体にとって最も危険な現象は何か？

実体におけるファシズムの発現、腐敗した社会の発現、安全保障の軍国主義などは、実体における内務（安全保障）省の候補者である「ベン・ガフィール」という肩書きのファシスト宗教右派の株が立ち上がって以来、キノコのように広がっている。

彼は、テロ組織「ティラル・ユース」やプライスタグ組織を創設し、擁護し、資金を提供した人物であり、子

供のアブ・クデイルやダワブシェ家を焼いた人物の背後に立ち、思想的にはテロ組織「カフ」に属している。パレスチナ人に対する情勢をエスカレートさせた張本人であり、1994年のイブラヒミ・モスク虐殺の実行犯であるテロリスト「バルーチ・ゴールドスタイン」の大ファンで、自宅のサロンには彼の写真が飾られている。

これらは、一部の女性から嫌がらせやレイプで訴えられているラビ「タオ」など多くの名前とともに、次のステージの肩書きを表す彼の個人的特徴の一部であり、彼は次の政権の柱の一部を形成する（ノーム）グループの精神的支柱であり、ラビは被害者から彼を守るために動員される。



ラビン」殺害の共犯と非難して「シンベット」に暴力を振るった「スモトリッチ」とともに、「治安維持」サービスの最初の仕掛け人とされる「ベン・グヴィール」の話に戻ろうか。むしろ、彼らの告発によれば、暗殺説の「シットコム」を制作したのだという。ラビン」を暗殺したのは「シンベット」であり、右派を告発するために病院に向かう途中で彼を殺害したというのだ。もちろん、「ベン・グヴィール」は「ネタニヤフ」と並んで「ラビン」殺害の主犯格であり、数週間前には、自らを「ベン・グヴィール」と見なし侮辱した。セキュリティ省は、パレスチナの若者を前にシェイク・ジャラーに銃を向けると、彼に従うシオニスト警察を含み、法律を自らの手で行使し警察を迂回すると公言して、「警察」のトップと対立しているのであった。

彼の妻もまた、新しい政治家層の女性たちの公式会合に登場したが、(国家の) 中心部での記念撮影の際、ピストルを身につけていた。個人用の武器を携帯することは、ナチスやファシストの指導者やその家族を思い起こさせるのだろうか？

この特別な質問には、他の人たちよりもシオニストたちが答えることができる。テロ対策を担当する新しい(治安) 大臣は、テロで告発された個人を支援し、「ネタニヤフ」は汚職で告発され、「ダリ」は汚職、収賄、横領で2度告発され、財務省の候補者でありながらまだ疑惑が漂っている？ラビ「スモーティルヒ」は(防衛) 省を主張し、軍や治安当局が反対し、「リクード」のメンバーも反対派が多数いる。

## パレスチナ日誌

### 8月15日

- ・イスラエル軍はバナナ畑をラス・アルアハマルで破壊した。
- ・イスラエル当局者：自治政府は弱く、ヒズブラはゴランから戦線を開くだろう。
- ・シリアメディア：イスラエルのシリアへの爆撃で、3人の兵士が殺された。
- ・西岸での逮捕、ジェニンの襲撃で武装衝突
- ・占領当局は、ウムアルファムの二人の青年がISISに参加しようとしていたと発表。
- ・占領軍は、ハマスのトンネルを発見したと主張
- ・4人の獄中者が、ハンストを継続している。

### 8月16日

- ・シリアの防空部隊は、二発のイスラエルのミサイルを撃ち落とすと発表。

この混乱は、国家に対する一般的な不安感と喪失感を生み、テルアビブ市長で元左翼のロニ・ハルダイは、左翼を代表する労働党がその歴史的使命を終えたと発表し、“国家には新しい形がある！”と表現しているのである。

いずれにせよ、「ハルダイ」は、「テルアビブ」市長に立候補し、「テルアビブ、民主主義と個人の自由の国家」というスローガンを掲げ、ヘルツルが望んだような(国家の) 表現として、それを表現するのだそう。これは何か未来を示すものなのだろうか。

「テルアビブ」が(国家の) 価値観や実体とは異なる独自の価値観を持つ国家となり、「第一イスラエル、第二イスラエル、第三イスラエル」という言葉が定着していくという意味です。

「テルアビブ」の前には(価値観を持った) シオニスト国家が表れ、それ以外の実体は(価値観を持った) 別の国家であり、エルサレムには他とは異なる(価値観)、ネゲブには手が付けられない。亀裂は、実体の(国家) の新しい地理的分布に変わり、地理的分布は、今後数年間、それ自身を持つ社会的・政治的表現に従うかもしれない。

- ・イスラム聖戦の指導者バッサム・アルサーディの拘束を延長した。
- ・占領海軍は、北部ガザ海で、4人の漁師を逮捕した。
- ・西岸での捜査と逮捕のキャンペーンで、負傷者
- ・アッパース大統領ドイツ首相と会談

### 8月17日

- ・ドイツでのアッパース大統領の大胆な声明で、イスラエルはヒステリー状態に
- ・バラタ難民キャンプでの衝突で、3人の市民がイスラエルの銃弾で負傷。
- ・テオカで、西岸で逮捕キャンペーンで23人が逮捕。
- ・ナジム一家は、イスラエルを国際司法裁判所で裁くように呼び掛けた。5人の子供がイスラエルの攻撃で殺されている。
- ・ラビド：トルコとの関係再開は、地域の安定への重要な資産である。
- ・ジェリコの北部で、占領当局は、水道を破壊し、144本のパームと柑橘類の苗を根こそぎにした。
- ・トルコとイスラエルは、正式に関係の正常化を発表した。
- ・ヤッタの東で、占領当局は、取り壊し通知を渡した。
- ・サルフィットの西で、占領当局は、5つの農業部屋を取り壊した。
- ・ティーレ・パヘール近くの434の入植地住宅建設の入札を行った。
- ・シュタイエ首相：我々はホロコーストを否定しなし、だれもパレスチナ人の虐殺を否定しない。
- ・ドイツは、パレスチナ代表を喚問した。
- ・占領軍は、二つのエルサレムの家族に自宅を取り壊すように強制した。

## オリーブの会通信 第24号(通巻30号)

- ・ファタハは、アッバース大統領への攻撃を非難した。
- ・ガンツは、アブマーゼンとの会談を擁護した。

### 8月18日

- ・占領軍のラマラへの襲撃で衝突
- ・人民戦線は、ナブルシの殉教者を追悼し、占領に対する人民の抵抗を賞賛した。
- ・占領当局は、ラマラの6つの人権団体、市民団体を閉鎖した。
- ・占領軍は、西岸で7人の市民を逮捕
- ・ナブルスで占領軍の銃弾で殉教者と負傷者
- ・MADAは、6つの事件団体の閉鎖を非難し、決定を覆すように国際的な圧力を呼びかけた。
- ・シュタイエ首相、われわれの団体は、占領軍の併催にも関わらず、活動を再開する。
- ・パレスチナは、イスラエルのテロ組織のリストの発表の準備をしている。
- ・IFTAAは、エルサレムの学校に対するイスラエルのカリキュラムを課す企てに警告
- ・NGOネットワークは、イスラエルによる市民団体の閉鎖は、即座の占領軍の攻撃を止める行動を求めている。
- ・ナブルスで殉教者ワシム・カリファの葬儀が行われた。
- ・アメリカのユダヤ団体の長が、アッバース大統領を反セム主義と非難

### 8月19日

- ・自治政府は、安保理で、パレスチナの団体の閉鎖に関して演説した。
- ・ツバスでの占領軍の銃撃で負傷から市民が殉教
- ・イスラエルは、ガザに1500の新たな許可を発行した。
- ・オマンは、イスラエルのフライトに領空を開くことを拒否した。
- ・ロシアの裁判所は、ユダヤ機関の閉鎖についての公聴会を延期した。
- ・ Beit Dajan と Beit al-Dajan での衝突で、イスラエルの発砲で、51人が負傷した。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、負傷者
- ・ Beit Dajan で反入植地行進への占領軍の弾圧の結果として、負傷者。

### 8月20日

- ・占領裁判所は、獄中者ハリール・アウワダ行政勾留を凍結した。
- ・人民戦線は、ドイツ警察を大統領の捜査を呼びかけたことで非難した。
- ・占領下エルサレムで、占領軍は3人の少年を逮捕した。
- ・ラマラの東で、市民を攻撃し、5本の木を伐採した。
- ・国連：パレスチナの7団体をテロリストとすることを正当性はない。
- ・民主戦線は、アッバース大統領へのキャンペーンを非難した。
- ・ハマスは、大統領に対する扇動キャンペーンを拒否し、非難する。
- ・ヨーロッパは、パレスチナでの市民団体の活動へのイスラエルの妨害に懸念を表明。
- ・ファタハは、大統領に対する扇動キャンペーンは、占領を終わらせることから逃亡する企てだ。
- ・入植者たちは、サルフィットの西で、2つ農業部屋を破壊した。
- ・ラマラでの対峙と子供の逮捕
- ・アラブ諸党派、パレスチナの市民団体へのイスラエル攻撃を非難

### 8月21日

- ・カルキリヤの近くで、3人の女性が、作戦を企てた容疑で、逮捕された。
- ・ベツレヘムの西のフサンで占領軍との衝突
- ・アルアクサが燃えた53回目の日に入植者たちが急襲。
- ・西岸とエルサレムで逮捕キャンペーン
- ・労働者たちが、検問所で、自分たちの給与が銀行に送金することを拒否したことへ抗議を行った。
- ・ラマラの北で、イスラエルバスが銃撃を受けた。
- ・占領軍は、エルサレム市民に、ペイト・サファファの家を取り壊すことを強制。
- ・ファタハの青年組織は、彼らのビルゼイト大学のコーディネーターの逮捕を非難
- ・アルーハクの責任者がシンベトから脅しを受けた。
- ・入植者たちは、ナブルスで、軍検察官の車に発砲。

### 8月22日

- ・ガザ南部で、イスラエルが羊飼いを標的にガス爆弾を投げた。
- ・占領軍は、西岸で逮捕と捜索のキャンペーンを開始。
- ・45のイスラエル団体は、占領軍によって、閉鎖されたパレスチナの団体への連帯を表明。
- ・イスラエルは、レバノン国境に動員をしている。
- ・民族主義・イスラム諸勢力は、大統領に対するキャンペーンを非難した。
- ・ガザ、アルアクサの開催の記念する大規模なフェスティバルが行われた。
- ・ペイト・ウマルの軍の監視ポイントが部分的に燃えた。
- ・占領当局は、ギロに1324の入植地住宅の建設を承認した。
- ・占領当局は、エルサレムのファタハ運動の書記を逮捕した。
- ・ジェリコの西で、占領当局は、8軒の家を取り壊した。
- ・アッバース大統領トルコを訪問
- ・占領軍はペイト・ウマルの入りを鉄のゲートで閉じた。

### 8月23日

- ・占領当局は、エルサレム市民の家族を取り壊しのために家から退去させた。
- ・アルコッズセンター：占領当局は事前の予告なしに、建物と施設をとりこわした。
- ・アッバースは、エルドアンと記者会見を行い、2国家方式を掘りくず粉とをやめることから始めなければ、平和も安全諸省も達成されない。
- ・イスラエルの裁判所は二つの学校と二つのクリニック、一軒のモスク、32戸の家の解体に道を開いた。

### 8月24日

- ・サルフィットで、入植者たちがタイヤを壊し、スローガンを書いた
- ・兵士が、アルアロウブ難民キャンプの襲撃と車両の放火の中で、窒息によって負傷した。
- ・西岸での逮捕キャンペーンで、ジェニンで武装衝突と二人の負傷者
- ・アルアロウブキャンプでの占領軍との衝突で、窒息による負傷者。
- ・エルドアン：エルサレムとアルアクサの現状の変更は受け入れられない。
- ・ワディ・アルアハマルで占領軍に居住テントと羊小屋を取り壊した。

- ・ 占領自治体の結締と罰金を払うのを避けるために、エルサレム市民は、シリワンの家を取り壊した。
- ・ ラマラ近くで、兵士たちが、残忍にパレスチナ人を攻撃した。
- ・ ネゲブ刑務所で、イスラム聖戦の複数の房を弾圧部隊が襲撃した。
- ・ 占領当局は、ベツレヘムの東の土地の調査を行い、市民が入ることを阻止した。
- ・ ヨルダン渓谷、占領軍は、赤い谷を襲撃し、その住民を追放した。

**8月25日**

- ・ メキシコ大統領は、イスラエルを学生の失踪事件にかかわった元当局者防衛していると非難。
- ・ バイデンは、ラピドの電話を取ることを拒否した。
- ・ 西岸の逮捕キャンペーンで、武装衝突、青年が銃撃された。
- ・ 人民戦線は、ラモン空港を通っての旅行を拒否するように訴えた。
- ・ 彼は3発の銃弾で殺された。殉教者ムハマッド・シャハムの検死結果
- ・ 呼びかけに応じて数十人の入植者たちがアルアクサを襲った。
- ・ 占領軍の主張：入植者のバスを銃撃した二人の容疑者を逮捕した。
- ・ イスラエルは紅海で米国との共同演習を行った。
- ・ 占領当局は、アルムカベルの青年をエルサレムで作戦を計画した容疑で逮捕した。
- ・ イスラエルの戦闘機は、シリアのマサヤフ市へミサイル攻撃を開始した。
- ・ 占領軍はアルアクサモスクから一人の女性を追い出し、シリワンを襲撃した。
- ・ 国連：西岸での暴力の増加は、入植地活動がア継続しているためである。
- ・ イスラエル軍のF35が、イラン領空を侵犯した。

**8月26日**

- ・ ナブルスの市民の逮捕
- ・ シリア：イスラエルの空からの侵略で二人の市民が負傷した。
- ・ バイデン：アメリカは、イランに関係したシリアの標的を攻撃し、攻撃を阻止した。
- ・ トルカラムで、釈放された獄中者が占領軍の銃弾で負傷した。
- ・ 入植者たちは、同らのカナル地区を襲撃した。
- ・ 占領検察は、パレスチナ人を刺した入植者に対するファイルを閉じようとしている。
- ・ カフル・カッダムの行進の弾圧で、5人が負傷した。
- ・ 占領軍は、中央島の東で羊飼いを標的にした。

**8月28日**

- ・ ベイト・ダジャンで占領軍の発砲で9人が負傷した。
- ・ 赤新月社：デイル・シャラフでゴム被膜弾と催涙ガスでの負傷。
- ・ 占領軍は、ナビ・サムエルから5人の青年を逮捕した。
- ・ 北部西岸で、イスラエルの軍用車への発砲
- ・ ベイト・ウマルでの衝突で、2人の青年が実弾で負傷し、数十人が窒息した。
- ・ 占領軍は、バカ・アルガルビヤの殉教者アブアクレの壁画を取り除いた。
- ・ 占領軍は、刺殺攻撃を計画したとして、パレスチナ人を逮捕
- ・ 占領当局は、アルワラジャの二部屋を取り壊す通告
- ・ ヘブロン：占領軍に拘束されている殉教者の遺体を返還するように要求して座り込み

**8月28日**

- ・ ラマラ近くで、入植地に銃撃

- ・ 西岸で逮捕者、ジェニンで占領軍の銃弾で3人が負傷。
- ・ 民主戦線：エルサレムのアラブ学校日台する戦争は、教育における入植地である。
- ・ イスラム・キリスト教協会は、イスラエルのカリキュラムを拒否したエルサレム市民の立場を賞賛した。
- ・ 占領当局は、アルルバン・アルシャルキイヤの青年を逮捕した。
- ・ ヨルダンは、過激派によるアルアクサへの襲撃の継続を非難した。
- ・ イスラエルは西シリアを攻撃した。
- ・ イスラエル商高は、イランに対する軍事行動に備えるように軍に呼びかけた。

**8月29日**

- ・ 北部と中部の請願で発砲を受けたとして、占領軍が集中した展開に
- ・ ジェニンの南。カバティアで9人が占領軍の銃弾で負傷した。
- ・ イスラム協力機構は、アルアクサへのイスラエル人の侵攻の継続を非難した。
- ・ 占領軍は占領地で家と泉の取り壊しをおこなった。
- ・ 検問所の建設のため、ヘブロンでオリーブの木を根こそぎにした。
- ・ 占領警察は、シリワンの青年を逮捕した。
- ・ 占領軍は、ジャバル・アルムカベルの青年を逮捕し、エルサレム市民をアルアクサからつれさった。
- ・ 占領当局は、シリワンで、建設中の家の取り壊しを通告した。

**8月30日**

- ・ ナブルスの襲撃の後、ヨセフの墓で、2人の入植者が銃撃された。
- ・ ナブルスでの武装衝突のあと、2人の抵抗戦士が投降した。
- ・ 西岸で襲撃と逮捕
- ・ 釈放数時間前に、占領当局は、エルサレムの獄中者を行政勾留に移送した。
- ・ 人民戦線は、アブアリムスタファの殉教を記念した。
- ・ ラピドは、入植者たちに、ヨセフの墓に調整なしに行かないように警告
- ・ 占領当局は、エルサレム市民の青年を喚問し、他の拘束を延長した。

- ・ アルアルウブキャンプでの占領軍との対峙で負傷者
- ・ イスラエルと日本は、相互軍事協力を強化することで合意
- ・ 入植者たちは、キサンの市民の家々を攻撃した。
- ・ ヘブロンで、占領兵が子供たちが家に帰るのを妨害した、

**8月31日**

- ・ ベイト・ウマルの衝突で、ゴム被膜弾で青年が負傷。
- ・ ナブルスの南で入植者たちが市民の車を攻撃
- ・ アルアクサの警備員一人が逮捕され、襲撃は続いている。
- ・ 占領軍は、カイフル・ハリスの3人の青年を逮捕
- ・ 占領軍は、ヘブロンで2人の兄弟を逮捕した。
- ・ 西岸での逮捕と捜索
- ・ シリワンの家を包囲したあと、占領軍は3人の青年を逮捕、そのうちの一人は負傷していた。
- ・ ベツレヘムツクの町で取り壊しと更地化
- ・ 占領軍の漁師への攻撃がエスカレート、二隻の船を没収し、ロケットを発射した。
- ・ イスラエルはアレppo国際空港を標的に攻撃をした。
- ・ 占領軍は、バブ・アルムードエリアで、2人の青年を逮捕した。
- ・ 占領軍は、南部ガザで、漁師を標的にし、船を没収した。

**9月1日**



## オリーブの会通信 第24号(通巻30号)

- ・ハマス：シリアへのイスラエルの爆撃は我が人民に対する侵略の延長である。
  - ・占領軍は、ハマスを支援しているという口実で、20人の人々と諸組織に制裁を課した。
  - ・ナブルスとアルビレで占領軍によって、2人が殉教
  - ・占領当局は、獄中者マナスラの釈放を求めるアピールを拒否した。
  - ・3つの入植地計画が承認された。
  - ・ジャーナリスト支援委員会：8月にメディアの自由の侵害が129件あった。
  - ・アラブ連盟は、権利を防衛する獄中者を支援する。
  - ・占領当局は、エルサレムのイスラムワクフの副長官を尋問のために召喚した。
  - ・占領当局は、エルサレムの墓地の発掘活動を行っている。
  - ・占領軍は、ジェニンで、訴追されているオマル・アルジャバリを逮捕した。
- 9月2日**
- ・290のアメリカと国際団体がバイデンに、イスラエルへの軍事援助をカットすることを呼びかけている。
  - ・占領軍は、ザバブデの町の市民を逮捕した。
  - ・占領軍は、ワディ・ファラーの市民をザタラ検問所で逮捕した。
  - ・ヘブロン北東で刺殺作戦で市民が殺され、イスラエル兵が負傷した。
  - ・カフルカッダムの行進の弾圧で、7人が金属弾で、負傷した。入植者たちが、ベツレヘムの南のいくつかのエリアを急襲した。
  - ・占領軍と入植者たちが、ナビ・サムエルの人々を攻撃し、4人を逮捕した。
  - ・シリワン、占領自治体は、エルサレム市民の一家に自分の家を取り壊すように強制した。
  - ・ベングビールは、預言者サムエルへの挑発的な急襲を率いた。
  - ・入植者たちは、エルサレム市民を攻撃した。
- 9月3日**
- ・占領軍は、ジェニンの南の検問所で、カパティヤの市民を逮捕した。
  - ・イスラエルは、西岸へ入る異国人に新たな制限を加えた。
  - ・トルコの駆逐艦がはじめてハイファ港に入った。
  - ・シュタイエ：我々の侵略は、我が民衆の不屈さを読めることと入植地への維持である。
  - ・報告：2009年以来占領右局は、9000のパレスチナの建物を取り壊した。
  - ・市民は、48年領内での家の取り壊しに反対するデモを行った。
  - ・占領軍は、アルアクサモスクの警備員の一人を逮捕した。
  - ・占領当局は、シンジル土地の8ドナムを更地にした。
  - ・カフルカラで暴力と犯罪に反対する車の行進が行われた。
  - ・占領軍は、ムガイールのラからの市民を逮捕した。
- 9月4日**
- ・占領軍はマサフェール・ヤツタでロバを逮捕した。
  - ・レバノン：国境にいた青年二人に音響爆弾を発射した。
  - ・占領軍は、ザラタ検問所で、チームを拘束したあと、パラタエンターの行政官を逮捕した。
  - ・占領当局は、シリワンのエルサレム市民の俗に家の取り壊しを強制した。
  - ・イランはイスラエルのモサドにリンクしたスパイ細胞を取り除いた
  - ・子供が、占領軍がマサリールヤツタで学生を拘束したあと、日射

病に

- ・占領軍は、レバノン国境で、軍事訓練を始めた。
  - ・エルサレムの2つの入植地計画の承認を求めている
  - ・西岸での複数の逮捕
  - ・木曜日、グーグルとアマゾン従業員が、占領国とのコンタクトをキャンセルすることを求めて、抗議をおこなった
  - ・エルサレム市民のジャーナリストラマ・ゴーシェさんの拘束を延長した。
  - ・ヨルダン渓谷の作戦の後、イスラエルでの警戒レベルが上がった。
  - ・占領軍は、ジェニンの北東にその存在を集中させている。
  - ・ハマス：ヨルダン渓谷作戦は、人民の抵抗が拡大し、不屈のものであることを確認した。
  - ・イスラム聖戦は、ヨルダン渓谷作戦を祝福した。
  - ・ベツレヘムでのムサ・アブマハミードの葬儀が行われた
  - ・抵抗委員会は、ヨルダン渓谷での銃撃の過程を祝福した。
  - ・民主戦線：ヨルダン渓谷での銃撃は、占領軍の発砲への自然な反応である。
  - ・人民戦線は、渓谷での英雄的作戦を賞賛した。
  - ・二人の容疑者の青年が逮捕され、負傷した。ヨルダン渓谷で占領軍のバスを銃撃した。
  - ・ジャーナリストゴーシェさんがシェイクジャラの自宅が主激されたあと逮捕された。
  - ・21人のジャーナリストが、ゴーシェの逮捕の後、獄中にある。
  - ・ラマラの方区政で、占領軍のタワーに爆弾が投げられ、4人の兵士が負傷した。
  - ・占領軍はヘブロン青年を4時間拘束したあと、逮捕した。
  - ・入植者たちは、サルフィットの西で、農民を攻撃した。
  - ・3度目、エルサレムの弁護士、サラハ・ハモウリの行政拘留を延長した。
  - ・アダメールはガザでの5人の市民の死刑執行を非難した。
  - ・西岸の逮捕、カタバヤでの占領軍の発砲で、ひとりの殉教者と負傷者。
- 9月6日**
- ・コチャビ参謀長；自治政府の弱さが西岸の作戦のエスカレーションを導いている。
  - ・アルーアクサ。女性の逮捕、入植者の侵攻の継続
  - ・占領当局のブルドーザーが、ジャバル・アルムカベル村のべを取り壊した。
  - ・占領軍は、ジャラズオン・キャンプの建物を標的にした。
  - ・占領軍は、若いエルサレム市民を逮捕した。
  - ・イスラエルは、アレツポ空港を標的にし、滑走路を使用できなくさせた。
  - ・入植者たちは、車両を攻撃し、ジェニン・ナブルス街道をブロックした。
  - ・占領軍は、西岸でドローンを使用する
  - ・シュファット難民キャンプ居住建物を急襲した。
  - ・占領軍は、子供を逮捕し、イブラヒミモスクの周辺の続きを強化。
  - ・占領軍は、ヘブロンで子供を逮捕した。
  - ・ベツレヘム南部で、入植者の攻撃について、市民が負傷し、他が逮捕された。
- 9月7日**
- ・エルサレムのジャーナリストの拘留が延長された。
  - ・ナブルスの東、サレム村で青年が負傷させられた後逮捕された。

- ・シンベトは、アクレの5人のパレスチナ人をイスラエル人の殺害を企てた容疑で逮捕した。
- ・ツバスで27人の青年が逮捕され、一人が殉教し、ゼネストが行われた。
- ・米国は、イスラエルに西岸での発砲規則を変更するように圧力
- ・150万ドルの合意が日本と世界食糧計画パレスチナで合意した
- ・206回目のアルキブのイスラエル当局による取り壊し。
- ・ツバスでの殉教者ユニス・アルタイエの葬儀
- ・ラビドのワシントンへの返事：誰も我々に銃撃始動をすることはできない。
- ・ガンツ：参謀長だけが発砲の命令をطيعいすることができる。
- ・占領当局は、施設の取り壊し、道にブルドーザーをかける通知をナブロスの西におこなった。

**9月8日**

- ・アルーワジャで占領当局は家の基礎と壁を取り壊した。
- ・ジェニンの衝突でイスラエル兵が負傷
- ・占領軍は8人の市民を逮捕、うち六人は、同じ家族
- ・ナブルスでの占領軍との衝突で、17人が負傷。
- ・カタールはイスラエルにパレスチナ人がワールドカップに旅行することを許可するように呼びかけた。
- ・ラマラの北東で、市民が占領軍の銃弾によって口された。
- ・占領軍、ソロモンのプール地域を襲撃した。
- ・占領軍は、シリワンで市民に自宅を取り壊すように強制した。
- ・占領裁判所は、ジャーナリストのラマ・ゴーシェさんの拘留を延長した。
- ・占領軍は、ヘブロンで2人の兄弟を逮捕した。
- ・ラマラ北部で、入植者たちの攻撃で、6人の市民が負傷。うち一人は、銃撃されていた
- ・占領軍は、 Beitoumarmal の入り口を閉鎖した

**9月9日**

- ・入植者たちがベツレヘムの東でテントを立てた。
- ・占領軍は、ベツレヘムの3人の青年を逮捕した。
- ・占領軍は、シリワドの市民を逮捕した。
- ・イスラエルはカラシ採掘場での採掘を延期
- ・入植者がハワラの銃撃で、負傷した。
- ・占領軍は、国境を越えようとした員のパレスチナ人を逮捕した。占領当局は、ネゲブでの土地を占拠し、ユダヤ化プロジェクトを再開した
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の銃撃で、4人が負傷した。
- ・Beit・DajanとBeitaでの占領軍との衝突負傷者。
- ・ナビ・サムエルの村の包囲を避難するデモの弾圧で負傷者

**9月10日**

- ・占領当局は、エルサレム市民の家族にバラックを取り壊すように強制した。
- ・ジャマインの家を占拠し、3人の市民を逮捕した。
- ・占領軍はダマスカス門で青年を逮捕した。
- ・入植者たちは、Ein・AlSakot水源の周辺での建設作業を続けている。
- ・ナブルスの南のカリュトで入植者たちが25本オリブの木を伐採した。
- ・占領軍は、Deil・Nizamの村議会の議長の家を検索。

- ・北部ガザで市民を逮捕

**9月11日**

- ・ハマスの代表団がモスクワに到着
- ・ラマラで病気の獄中者アブハミッドの釈放を呼びかけるデモお行われた。
- ・ジェニンで、殉教者アブジラダの追悼の全面ストが行われた
- ・入植者は、ナブルスの南に新たな前哨基地を設立した。
- ・パレスチナ人の女性が、エルサレムで刺殺攻撃をしようとした容疑で逮捕された。
- ・イスラエルは、カタールにアブマーゼンに圧力をかけ、西岸を平静な対応にするように要求した
- ・ジェニンで殉教者、占領軍の銃弾での負傷から
- ・イスラエル当局は、ネゲブで、テントを取り壊した。
- ・戒厳令、イスラエル：我々は西岸での作戦についての警報を受けている。
- ・ジェニンの西の入植地で銃撃
- ・入植者たちは、ナブルスの東Beit・Frikで家を攻撃し、ガスボンベに火をつけた。
- ・占領軍は、ヘブロン南ダハリア検問所で、3人の労働者を逮捕した。
- ・未亡人と子供が住んでいるを占領当局は、家の取り壊しを強制した。

**9月12日**

- ・西岸で4人の逮捕、ジェニンの襲撃で、子供を含む負傷者。
- ・ラマラの南西で、投石で、女性兵士が負傷した。

**9月13日**

- ・ヘブロン、入植者たちが、羊飼いに発砲し、市民を攻撃した。
- ・特殊部隊が、Deheshia campから釈放された獄中者を誘拐した。
- ・西岸で逮捕者
- ・ヘブロンで占領軍は彼らを殴打した後、2人の青年を拘束した。
- ・占領軍は、西岸で武装ドローンを用い始めた
- ・ヘブロンで、占領軍兵士が2人の青年を逮捕し、他を攻撃した。
- ・ヘブロンで、獄中者アブハミッドの釈放を要求するスタンディングを行った。
- ・ジャーナリストゴーシェの釈放の決定、自宅軟禁に移される。
- ・6人の漁師の占領海軍とエジプト治安部隊によって逮捕された。
- ・占領軍はクサラの入り口を土で封鎖した。
- ・占領当局は、アラブ・アルカバネの15家族にエルサレムの北西の家から退去するように通知した。
- ・占領軍は、ハワラ検問所で、ナイフを所持している容疑で子供を逮捕した。

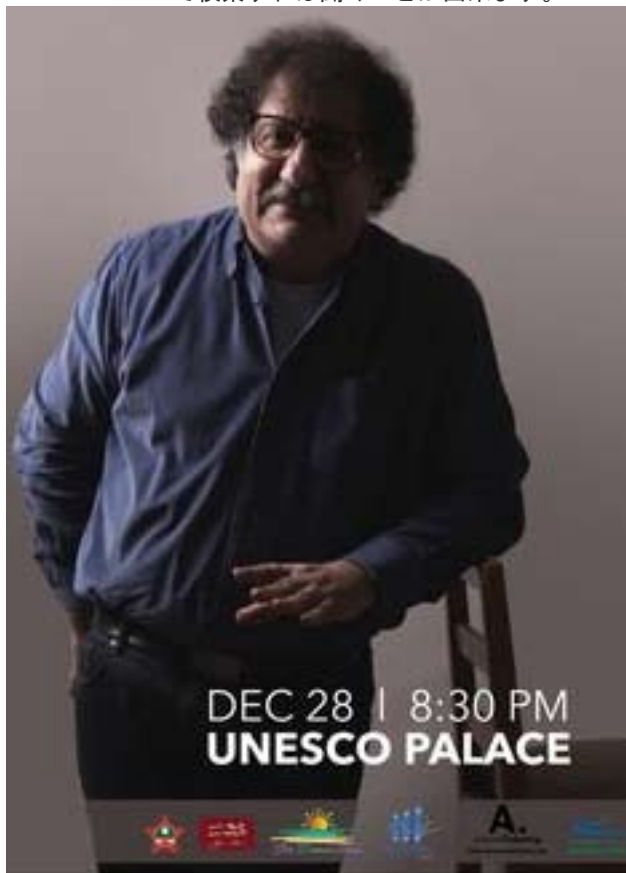
**9月14日**

- ・ジェニンで全面スト、ジャマラ検問所近くで占領軍の銃撃で2人が殉教
- ・イスラエル将校が、アルージャラマ検問所近くでの武装衝突で、殺された。
- ・人民抵抗：アルージャラマ作戦は、抵抗が唯一の道であることを示した。
- ・イスラム聖戦がアルージャラマ作戦を祝福した。
- ・イスラム・キリスト教協会は、強制移住に反対しているベドウィンコミュニティへの支援を呼びかけた。
- ・占領軍は、2つのテントを押収し、家の写真をとった。マサフィー

# ベイрут・ブクラ

ハリッド・ハベル

この歌はパレスチナの歌ではなく、レバノンのベイ  
ルートの町を歌ったものです。ベイрутを歌った歌は  
たくさんありますが、80年代にこのハベルさんを日本  
に招いてコンサートを行ったことがあり、加藤登紀子さ  
んとも共演したことがあります。レバノン内戦で、と  
くにベイрутが東西に分かれて戦闘していた時のにお  
いがする時代でした。局の方は歌の方は、youtubede  
Beirut boukra で検索すれば聞くことが出来ます。



忘却の森の孤独な木のように  
4月に不自由になった小さなスズメのように  
眠っている人のように、彼は人の夢を見る  
自由のように、国の犯罪は失われます  
エコーの中で一人で出た音のように  
ベイрутは立って呼びかけた  
調子はどう？  
ベイрутの人々、ポート、通り  
そして窓に目を向ける  
そして彼女の傷と痛みの夢  
ベイрутの人々、ポート、通り

そして窓に目を向ける  
そして彼女の傷と痛みの夢  
大通り、英雄、塹壕のあるベイрут  
そして、家の壁で夜更かしする自由  
ベイрутの人々、ポート、通り  
そして窓に目を向ける  
そして彼女の傷と痛みの夢  
ベイрутの人々、ポート、通り  
そして窓に目を向ける  
そして彼女の傷と痛みの夢  
大通り、英雄、塹壕のあるベイрут  
そして、家の壁で夜更かしする自由  
ベイрут  
ベイрут  
ベイрутで何が起きたかと言えば、ベイрут・ブ  
クラ  
彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む  
ベイрутで何が起きたかと言えば、ベイрут・ブ  
クラ  
彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む  
目に映る最も美しい都市は死なない  
夢に向かって、楽しみに  
ベイрутの夢が帰ってきた  
目に映る最も美しい都市は死なない  
夢に向かって、楽しみに  
ベイрутの夢が帰ってきた  
ベイрутで何が起きたかと言えば、ベイрут・ブ  
クラ  
彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む  
ベイрутで何が起きたかと言えば、ベイрут・ブ  
クラ  
彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む  
彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む

彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む  
彼女は通りで頭を上げ、家で微笑む  
ベイрут



# おいしいパレスチナ

## ファスリア・ベイダ



### 白いんげん豆の煮物

乾燥白いんげん豆 2.5カップ  
オリーブオイル 大さじ4  
玉ねぎのみじん切り(中) 1個分  
トマト(みじん切り) 1kg  
水 2カップ  
肉(牛肉、山羊肉でも可) 350g  
塩 小さじ1

1. 豆は一晩水に浸けておく。
2. 時間がない場合は、鍋に豆を入れ、豆が完全に浸るくらいの水を加え、さらに豆から5～7cmの高さまで水を加える。沸騰したら火を止め、蓋をして2時間置く。
3. 圧力鍋にオリーブオイルと玉ねぎを入れる(圧力鍋をお持ちでない方は注意事項をご覧ください)

4. 4. 玉ねぎを3～5分炒める。
5. 肉を加え、時々かき混ぜながら10分ほど加熱する。
6. 浸して水気を切った豆を加える。
7. 7. フードプロセッサーまたはブレンダーで、トマトと水をなめらかになるまで混ぜる。
8. 8. 混ぜたトマトを圧力鍋に入れる。
9. 塩を加える。
10. 圧力鍋を閉め、中火で13分加熱する。
11. 11. 火を止め、鍋が冷めてから蓋を開ける。

#### 注意事項

圧力鍋がない場合は、普通の鍋で調理できますが、調理時間を約45分から1時間、または豆に火が通り、柔らかくなるまで延長する必要があります。

### 守ろう！オリーブの木を カンパのお願い



#### オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。  
パレスチナの農民の土地を守る闘い、  
生活を守る闘いを支援します。  
集まった基金は、パレスチナ農業  
労働委員会連合(UAWC)に送ります。

#### 郵便振替

記号番号：00960-2-303500番  
名称：オリーブの会(オリーブノカイ)

#### 他行等から振り込む場合

店名(店番)：〇九九店(099)  
預金種目：当座  
口座番号0303500



11月6日豊中市の市民カフェスタに久々に出店しました。たくさんの方に来ていただきありがとうございました。



11月6日、エジプトで開かれたCOP27にパレスチナ・リザーブも参加しました。



11月21日、英国、欧州の外交官によるヘブロン視察が行われた。

## 今号の内容

極右の支配するイスラエル新政権・・・1  
 ネタニヤフ政権と世界・・・2  
 新政権と次のエスカレート・・・3  
 ファシズムとイスラエルの選挙結果に直面し、パレスチナの抵抗は拡大している・・・5  
 可能性と必要性の間で・・・7  
 シオニスト実体の今後の特徴について・・・8  
 パレスチナ日誌・・・10  
 パレスチナの愛した歌・・・14  
 おいしいパレスチナー・・・15  
 トピック・・・16



11月10日、アラファトの殉教とパレスチナ独立宣言を記念して集会が行われた



American model Natalia Barulich wears a Palestine flag armband at Qatar's FIFA World Cup.

カタールのワールドカップで、米国のモデルが、パレスチナの腕章をつけた。また、あちこちパレスチナの旗が振られた。